



よきアドバイザーとして

校長 永井 有司

新年度が始まって1ヶ月が過ぎました。子どもたちは学校生活にも慣れてきて、日々勉強に運動に頑張っており取り組んでいます。先日は、ご多用の中、授業参観・懇談会に多くの保護者の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。よい「出会い」のひとつとなりましたでしょうか。何か心配事等ありましたら、どうぞ担任または学校にご連絡ください。一緒に考えながら、よりよい解決に向け、共に努力をしていきたいと思っております。

5月には運動会も計画しています。上級生には下級生たちへのよい見本となるように、「チャレンジ精神」を遺憾なく発揮して、よい成果を上げてもらいたいと思っております。保護者の皆様の応援もよろしくお願いいたします。

さて、子どもたちは、日々の学校生活のなかで思い通りにならないことに出会います。勉強のこと、遊びのこと、友達関係など、むしろ、思い通りにならないことの方が多いかもしれません。そういうときにどのように折り合いをつけていくのか、折り合いの付け方を学ぶことも生きていく上では大切なスキルだと感じます。

このスキルを身につけていくためには、たくさんのご経験をすること、そして、その中でたくさんの方と出会うことが大切だと考えています。遊びのなかでの譲り合いやあきらめずに頑張ること等の経験を通して、我慢する心や頑張る力、さらには、仲間のよさや感謝の気持ちなども身につけていきます。そして、思い通りにならないことを乗り越えていきながら、子どもは成長していきます。そう考えると、年相応に思い通りにならない壁にぶつかることも、子どもの成長には欠かせないものといえます。

わたしたち大人の役目としては、壁を乗り越えていこうと頑張っている子どもたちにとって、よきアドバイザーになることだと考えています。過度の手助けは控え、時機をとらえて、必要なアドバイスをしながら子どもを見守っていくことだと思っております。また、子どもを信じることは大切ですが、時には自分勝手なルールや思い込みで行動したり、心ない言葉で相手を傷つけたりしてしまうことがあるかもしれません。そんなときには、正してあげるのも大人の責任だと思っております。

大宮別所小学校の子どもたちが、将来をたくましく生きていけるように、学校と保護者との連携を密にし、協力して教育にあたっていきたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



4月28日（金）の講話朝会で子どもたちに紹介した詩です。ご家庭でも話題にしていいただければと思います。

しあわせのたね

だれもがみんな
うまれたときからもっている
ひとりにひとつ
しあわせのたね
それぞれみんな



いろいろかたちもおおきさも
まったくちがう
しあわせのたね
とうぜんみんな
めがでるじきもちがうから
くらべないでよ
しあわせのたね

それでもみんな
いつかはなはさくからさ
だいじにしてね
しあわせのたね

「心をやす 心の詩」
(にしむら えいじ 詩集より)